

日使頭祭

令和5年4月8日(土)

4月8日(土)、京都・大山崎の油祖離宮八幡宮において春の大祭である日使頭祭が開催され、メーカー、業界団体、問屋、問屋団体、業界紙誌関係者70余名が参加した。また、総代会、地元関係者も多数出席し、油脂業界の発展と繁栄、更には無事息災を祈願した。過去3年間はコロナ禍の中で規模を縮小し、参拝は個人として行なっていたので、団体参拝は4年ぶりとなった。神事においては、まだコロナ禍が収束した訳ではないことを鑑み、恒例の式神楽、湯立神事は行なわれなかった。



日使頭の新妻会長



津田定明宮司

本年の日使頭(ひのかしら)は一般社団法人日本植物油協会の新妻一彦会長(昭和産業(株)代表取締役会長)が務められ、神事の後の挨拶では「油祖離宮八幡宮は、わが国の油脂産業の基礎を築いた栄光が多くの人に語り継がれている。この地に立って改めて悠久の歴史を感じた。」「かつて灯明として使われていたエゴマ油は、現在は健康油として注目されており、多種多様な植物油がその機能などで脚光を浴びている。植物油という国民の命と健康を守る価値のある商品を取り扱っているという使命を改めて認識し、全うするため、直面する課題に立ち向かっていくことを誓う。」と述べた。この後、津田定明宮司の挨拶に続き、津田定豊禰宜がソイオイルマスターの資格を取得した報告があった。



メーカー各社より奉納された植物油

今年はコロナの影響を鑑み、直会、模擬店は行われなかったが「大山崎えごまクラブ」による立木式搾油機でのエゴマ油絞りや、地元「つくどん」による和太鼓演奏奉納が行なわれ、多くの参拝者で賑わった。

(写真提供 油脂特報社)